

道教委 賃金継続・定員教育予算交渉③ 報告

今年度退職者の退職手当削減を阻止!

「超勤解消、庁内一丸となってすすめる」(教育長) ～「入選業務」「PTA会議」など「割り振り業務拡大」～



1月24日(水)、8時30分から道庁別館8階会議室で「賃金継続・定員教育予算最終交渉」を行い、全道の学校職場からかけつけた高教組・道教組組合員および本部役員27名



道高教組札幌支部
(札幌市中央区大通西12丁目
北海道高等学校教職員センター
3階)
TEL 011-271-5875
FAX 011-271-5895

賃金継続・定員教育予算交渉の結果

- 退職手当の支給水準を次年度より引き下げる
 - 退職手当の調整率を、現行 87/100 から 83.7/100 に (平均 78.1 万円) 引き下げる
 - 今年度実施を見送り、平成 30 年 4 月 1 日から実施
- 割り振り変更対象業務に「保護者説明会」「入選業務」を追加、11業務へ
 - 「保護者・地域住民等説明会」は、保護者会やPTAの会議、進路説明会、学校評議委員会などが対象となり、次年度より実施
 - 「入選業務」は、入選に係る周辺業務が対象で、今年度入選より実施
 - 割り振り結果の職員への通知は、現行 14 日前から、原則 7 日前(特別な事情がある場合は前日)まで可能に様式の簡略化も実施する
 - 長期休業中にも割り振りを可能とする「弾力的な変形労働時間制の導入」については、「法改正を国に対して強く要望していく」
- 超勤解消に向けたアクションプランについて
 - 学校閉庁日は、その導入に向けて「休暇の扱いなどを含めて検討している」
 - 勤務時間の客観的な把握・具体的な方法については、「検討を行っている」
 - 部活動顧問の負担軽減については、「部活動休養日の完全実施など、実効ある取組が進むよう努めてまいる」

が交渉に臨みましました。道教委は柴田教育長ら出席。その主な交渉結果について、お知らせします。

「約 80 万円」にも及び「退職手当削減提案」については、他の都府県が今年度退職者からの「退職手当削減」実施に踏み切るなか、教育長は「平成 30 年 4 月 1 日から実施する」と実質 1 年先送りする回答を返しました。今年度実施を見送らせたことは、11 月から始まった北海道知事・道教委との 3 回の「賃金確定交渉」と 12

月 18 日・1 月 18 日そして今回、3 回に及び「退職手当削減撤回を求める交渉」において、全道の職場でとりくまれた「賃金署名」や「怒りのレッドカード」などに寄せられた全道教職員の声の力であり、現場の劣悪な勤務実態を説得力を持って訴えた交渉団・組合員の力です。「ただかかってこそ要求が進む」と

ただかかってこそ要求が進む

しかし、突然提案された「退職手当削減」問題は、今年度実施を 1 年先送りしたことによる、来年度以降の退職者は、約 80 万円削減されることになるわけですから、引き続き高齢層教職員の処遇改善を求めていく必要があります。

【交渉報告は更に2面につづく】

第2回学校職場づくり学習会ダイジェスト 「高大接続改革」・「大学入試改革」を考える

新年早々行われた「学校職場づくり学習会」。テーマは、「高くないにもかわらず、いつの間にか既定路線となつていまいが、批判も多々あります。一方で、大学も「改革」を迫られています。「求められる人物像」、体系的な教育課程の編成、「教育成果」が求められる。結果がすぐに求められる学問の成果や、就職率や面倒見のよい大学など、近視眼的な「改革」が求められます。

○高大接続改革で、一体何が起きているのか。

共通一次試験の導入やセンター試験の導入など、これまでも大学入試改革はありましたが、今回ほど大きな改革ではありませんでした。今回の「高大接続システム改革」は、高校・大学の両方を同時に改革する計画です。高校の改革は「学力の3要素」の徹底を意図しています。この「学力



「大学入試改革を考へ」
―青年期の豊かな学び―
講師 光本 滋
(北海道大学教育学部)

によって4技能(読む・聞く・書く・話す)を測定するとしています。更に問題なのは、個別試験の改革です。大学は、調査書、志願者の記載する資料の活用方法を募集要項に明記しなければなりません。ICTを活用し「主体性等」を評価する一般入試試験のモデル開発も行われています。更には、英語の試験を課す場合4技能を総合的に評価する

としています。今まで比較的大学の裁量で行われてきた個別試験も、このように改革の対象にされてしまっています。

推薦入試に至っては、推薦書の中に学力の3要素に関する評価を記述し、大学がこれを活用することを「必須」としています。これらは、学力の3要素を常に意識するように高校教育を向かわせることに容易につながります。

○なぜ「このような」改革が行われるのか

大学側も学生の基礎的な知識・技能の不足や必要な科目の未履修、また学習意欲の低下など問題視し、改革を求める声はありました。大学側の基本的な要求は、伝統的な大学教育の維持など、あくまでも「学問の論議」の観点で大学入試改革を構想しました。

しかし、一方で、政府・経済界もまた、大学教育・高等教育の再編を要求しました。「人的資本」の効率的な育成、国際競争力強化に資する大学づくり、高等教育の複線化がそのねらいです。そして、その背景には、テストの産業・利権化が絡んでいます。

○「高大接続システム改革」の問題

「学力の3要素」を重視する入試により、高校で学問的な力を養い、大学で本格的に学問を行うという現行制度の趣旨に変わりが進んでいきます。例えば「大学入学共通テスト」、果たして学問的な内容だと言えるのでしょうか。テストと調査書による課外・学校外の活動が全面的に統制され、調査書様式が改定され、大学は活用方法を明記させなければならなりません。従って、生徒の課外活動が一般入試においても、合否に関わります。「グローバル人材」育成に偏重した英語教育も大変問題です。「改革」を批判する学者もいます。

○わたがての課題

更に、教育行政と教育産業による教育支配体制が出現します。一部の大学は一般入試の作問の業者委託、「高校生のための学びの基礎診断」も外部試験化し、教育のあらゆるところに教育産業が入り込んでいきます。その結果、教育は教育産業に支配され、その結果、高校・大学教育の自立性が喪失し、学問の自由すら脅かされてしまっています。

【高教組札幌支部 闘争カンパのお礼】

今年度も、昨年6月・12月「期末・勤勉手当」の時期に、「支部闘争カンパ」にご協力いただきありがとうございました。皆様から寄せられたカンパについては、秋・1月期に行われている「賃金・定員教育予算道教委交渉」交渉団費用や全教職員配布の支部機関紙「はばたき」の発行、あるいは原水禁世界大会・さっぽろ平和行動などの共闘平和のとりくみなどに活用させていただいています。今後とも働きやすい職場づくりのために活動を広げて行きます。引きつぎご協力をお願いします。

中部東海ブロックでは、毎年高校教員が多数参加する中で、入試制度検討委員会が、大学入試問題の分析・検討や「高大接続」に関わる共同のとりくみが行われてきました。あらためて、このような研究と実践が、中等教育・高等教育の理念の再確認も含めた「高大接続」のあり方について、高校・大学間において、共同をどうすすめるか大きな課題になると思えます。

超勤縮減「アクションプラン」年度内作成へ 人間ドック精密検査も「職専免」へ検討

「賃金交渉」につづき「2017年度定員教育予算交渉」が、1月12日から3回目となる交渉で、柴田教育長らが対応しました。

この道教委交渉は、教職員定数改善や教職員の異様な働き方改善・「超勤解消」など教職員の勤務条件改善など切実な要求、「2017年度定員・教育予算要求書」に基づき行われたものです。

その主な項目についての交渉結果は以下の通りです。

【人間ドックの精密検査について】

高教組（職員検診における「再検査」は「職専免」となっているが）人間ドックの再検査・精密検査は、学校によっては、「年休」を取得し検査に行くよう処理している。人間ドックの再検査・精密検査を「厚生に関する計画」に位置付け、「職専免」の扱いとするよう求める。

教育長・人間ドックの結果に基づき、精密検査を受診する場合の服務上の取扱いについて

【臨時教員の確保について】

高教組：全国の公立学校で「先生が足りない」という異常事態が起きている。採用構造を大きく見直すなど、あらゆる対策をとって、教員不足の解消を急ぐべきだ。問題解決に向けての教育長の決意を伺う。

教育長：道教委としては、安定的な学校運営を図る上で、できる限り正規の教員を配置することが望ましいと考えており、翌年度以降の学級編制などの状況をよりの確に踏まえた教員の採用に努めてまいります。また、期限付き教員等を対象とした採用選考の導入について検討を進めてまいりたいと考えております。

【宿日直業務の負担軽減について】

高教組：62.4%が宿直明けの負担軽減が図られていない状況は、

は、職務専念義務免除とする方向で、検討を進めて参りたい。

【割振り対象業務の拡大について】

高教組：学校現場の超勤を、少しでも緩和させるため、割振り変更業務の拡大や運用の改善を求める。

教育長：保護者会や保護者説明会、PTAの会議などにおける保護者や地域住民等に対する説明を行う業務及び道立学校の入学選抜の業務を新たに対象業務に加えるほか、14日前までとしている職員に対する割振り結果の通知期限を原則7日前までとし、さらに業務の日程が直前に決まった場合など、特別な事情がある場合については前日までとするなど、運用の改善を図ってまいります。

【超勤・多忙化の解消について】

高教組：超勤解消に向け「アクションプラン」を年度内に作成しているとのことだが、今回の交渉では、具体的な方策が示されたとは到底いえない状況だ。超勤解消の根本的な解決に向け、今後も我々と協議を行うよう求める。

教育長：時間外勤務等の縮減に向けた具体的な取組の検討を行う際には、勤務条件に関し皆様とも話し合いを行うなど、適切に対応してまいります。

交渉のまとめ

（高教組・國田委員長）

退職手当削減、次年度への実施時期の繰り延べについては、皆さんの努力を多としたい。しかし問題の先送りであることは認めず、今後その代替を求めて協議をしていきたい。

超勤解消にむけては、庁内一丸となって取り組むということであるが、早急に実効ある取組を行ってほしい。昨日、時間外勤務等縮減推進会議が行われ、割り振り変更業務の拡大などが話し合われたが、超勤解消の最も効果的なりくみは、業務の削減と教職員の増員であることは間違いなく、そのこと

高教組：教職員が人間らしく健康でいきいきと教育に専念できるようにするには、本日の回答だけで不十分である。最後に、教職員の長時間過密労働の抜本的な解決に向け、教育長の決意をうかがう。

教育長：本日お示した勤務時間等に係る制度改正が適切に運用されるよう周知することにも、具体的な施策を盛り込んだアクションプランを年度内に作成し、時間外勤務の一層の縮減に庁内一丸となって取り組んでまいります。

「退職手当削減」に関わる道教委交渉 退職予定組合員からの怒りの現場発言より

80万円もの削減、生活設計壊すもの、撤回を！

この3月に札幌で定年退職を迎えます。まず、38年間、北海道の子どもの教育に携わることができ、改めて道民そして道教委の皆さんに感謝申し上げます。

しかし、この間約20年間を振り返ってみると、賃金削減等で家庭に対する経済的打撃があまりにも大きく、そのため特に退職後の生活設計を大きく狂わされているのは我が家だけではないと思っています。妻からも「何とかしてやらうようにお願いして」と言われて今日ここに来ました。多少、具体的話になりませんがどうかお聞きください。

私は20年前の自宅購入時に、約1000万円を退職金で支払うローンを組みました。当時の概算では教員がフルに勤めた場合、3000万円＋αの退職金を見込めた時代で、私は、ローン返済後の残りを蓄えた上で年金生活に入るつもりでした。しかしながら、この20年間で家計の状況も徐々に苦しくな

り、現在に至っています。そして、17年間にも及び道独自削減により大幅な賃金カットや、さらには「給与構造改革」や「給与の総合的見直し」など度重なる給料表の大幅引き下げもあり、退職金の算定基礎給料月額減少（10年前と比較すると約4万円の減額）による退職金削減、さらに2012年の約400万円にも及び退職手当削減の強行で、既に平均700万円もの削減が行われています。そして、今回さらに追い打ちをかけるように約80万円の削減です。このまま強行されたら、私の場合、退職金の残りは約1200万円の減額になってしまいます。しかも年金支給は3年後です。当たり前ですが、妻は最後の最後に何でこんなことになるのかと怒っています。

また、我が家ではまだ子どもへの教育費がかかるため、私は4月から再任用フルを希望していますが、これもどうなるか今現在わかりません。フルがあつても単身赴任か、あるいはハーフしかないか、最悪、職を失うのか、4月からの生活が不安で不安でどう表現していいかわかりません。

たぶん、「ふざけるな！」と怒っている私よりもっと深刻で不安を抱えている仲間が沢山いるのではないかと思います。このような状況を道教委の皆さんはどう思いますか？ 仕方がないで済まされますか？ おそらく私たちと立場は違っても、退職間近の皆さんの家族であれば私たちの気持ちと同じだと思いませんか。どうかお願いします。私の最後の生活の不安を少しでも解消してもらえるのは道教委の皆さんしかいません！ 冒頭、38年間北海道の子どもの教育に携わることができた道教委に対し感謝申し上げます私からの最後のお願いを是非叶えてください。

【道教委交渉結果に「職場からの声」が寄せられました。紹介します】

☆「すべてに、教頭と今年退職の職員さんに伝えたら、すこいねえと言っていました。押し返せる部分もあるっていうのはインパクトが大きいです。」

☆「高教組の風を意識し、職員室内で聞こえるように言ってみました。『僕の一枚（レッドカード）役に立ったかな』って言ってくれる人もいました。」

☆「今朝みんなにニュースを配りました。配りつつ今年度は阻止したことを伝えると、『組合ってすごいですねー』と口々にすごい声が上がっていました。」

☆「校長は今年で退職なので、『良かったー』と安堵の声が出ていました。」

怒りのレッドカードや「支部闘争キャンプ」に協力をいただきましたありがとうございます

